説明会及び意見交換会の概要

日　　時	平成２５年　９月　１８日　（水）　１９：００～２０：３０		
対象団体	神戸地域づくり協議会	参加者数	２５人
場　　所	神戸地区公民館		
出席者	渡部会長、岩崎副会長、木村教育委員会事務局次長、校区審議室（神谷、小谷、清水）		

	主な意見、質問等	質問に対しての回答
1	校区審議会は以前に神戸小を視察されたとのことだが、神戸小の印象や感じたことについて聞きたい。	（会長）小規模校で視察したのは神戸小だけで、小規模校で一番充実しているのではと訪問した。業間に、先生と児童が一緒になって裏山を登り下りする様子も見た。平成１８年から校区審議会の会長だが、審議会が地域の意見を無視してゴリ押しをしたことはない。岩倉と宮ノ下の小学校区の変更、佐治と用瀬の中学校の統合も、地域の方から要望が出され議論したもの。今回も統合ありきで進めているものではない。神戸地区の皆さんが、こういう工夫をしたいとか取り組みをやりたいとか、しっかりと示していただきたい。
		（会長）審議のポイントは、規模、通学距離、配置や地域との関係。ただ、小学校と中学校では規模の問題は違うと考えている。中学校はある程度の規模で教科学習や部活動との関係が大切だが、小学校は通学距離や地域との関わりといったことが大きく、規模ありきで進めているわけではない。
		（会長）神戸のコミュニティ計画は、非常によくまとまっている。これをベースに、神戸の思いを半年位でまとめてはどうか。例えば、小規模校転入制度の経緯や成果で、何年度に始まり何人がこの神戸に来て、その子たちや神戸の子どもたちにとって、こんな成果があったと書き入れてはどうか。
		（会長）南部町のコミュニティスクールを、視察に行ってはどうか。ここはＰＴＡではなく、両親が共働きのため地域に残る祖父母で組織する、Ｇ（グランドペアレント）ＴＡという組織で、学校とのつながりを作っている。神戸が今まで築いてきた学校と地域との関係を、もっとしっかりさせるためにはどのような取り組みがいいのか、コミュニティスクールがいいのか、小中一貫のがいいのか、そういうところまで考えていただけたらと思う。
		（会長）小規模校の子どもが中学で新しい環境になった時、活動や学習に馴染めないことを、中１ギャップと呼んでいる。そうならないよう、例えば神戸と美和と江山の小６と中１が交流する取り組みはどうか。水泳を中学生が小学生を教える活動を紹介したが、インターネットで繋いでの交流はどうか。
		（会長）小規模校の不利な面を記しているが、それに反論する色々なアイディアを出して欲しい。神戸小の今の活動を発展させ、継続させていきたい。そのためには市議会や予算権を持つ市長部局に、納得いくものを出さない限り予算は確保出来ない。地区の皆さんと一緒になって、神戸の活動が充実・発展出来るよう知恵を使っていきたい。
		（副会長）私として思うのは、一部の個人の意見だけが校区審議会や教育委員会に伝わるのではなく、窓口を作る形で、神戸地区の意見として意見や考えを出して欲しいということ。そうすると、校区審議会の審議する段階で活かすことが出来る。

説明会及び意見交換会の概要

	主な意見、質問等	質問に対しての回答
2	答申が出ると、議論もその方向に行くのか。「中間とりまとめ」では、スケジュールの中で２９年までに緊急度Ａの学校の結論を出すとしている。住民は、２９年までに統合されると思っている。会長の話は、それとは逆の考えのようだが、教育委員会との統一した意見なのか。	（会長）緊急度とは、地域でしっかり議論し、地域の答えとして何らかの方向性を出して欲しいということ。教育委員会や校区審議会として、結論がある訳ではない。問題点や課題を伝えたうえで、地区の思い、地区のアイディア、地区の展望が、個人の意見ではなく地区の意見として話し合って欲しいという意味だ。
3	「中間とりまとめ」で、実施は２９年度という表現になっているのは、まずいのではないか。	（会長）仮に、神戸がコミュニティスクールを実施したいなら、これを実現する方向に持って行かないといけない。小中一貫となると、神戸小は江山中と少し距離があり、場所が離れた小中連携というのもある。地域の意見を踏まえた実施であり統合だけではない。出来れば来年の２月ないし３月位までに、地区全体の考えとして、コミュニティスクールなのか、小中連携なのか、統合なのか、組み合わせるのか、インターネットでつなぐアイデアなのか、といった議論をお願いしたい。
4	小規模校転入制度は、神戸小学校は実績があまりない。どんな状況にあるのか、どう見ているのかを他の学校も含めて聞きたい。地域もこの制度に期待していたが、現実はこういう状況だ。この制度を、今後どう展開していくのか、何か改善しない限り展望が見えてこない気がする。	（事務局）現在、神戸小は２名。他では東郷小が多く、あと小中一貫校の湖南学園も多い。湖南学園の見学会で、校長が「小中一貫校という取り組みが受け入れられている結果ではないか」と言っていた。小中一貫校が他の学校とは違う形をアピールし、それに魅力を感じる保護者や子供たちが転入して来るとのこと。なお、小規模校転入制度で校区外から通学する場合、遠距離通学費補助金の対象にしている。小規模校転入制度がより活用されるよう支給対象を拡大したが、一気に希望者が増える状況にはない。
5	小規模校転入では、神戸小は市街地から距離があり負担が大きい。取り組みも遅れている。ただし、力を入れて勧誘し、マーケットなどでチラシを配っても集まらない所もある。神戸小に来たら何の特典があるか地域の中で話が出来ていない。小学校も保育園も非常に環境が良く、子どもたちが伸び伸び育ち、中学校もまとまった形で教育・指導がされ、雰囲気としてはそれなりに良い。ただ、そこに子どもを連れてくるのは、なかなか難しいのが現状だろう。神戸も色々な取り組みをしており、そういうことを早いうちにまとめるよう、地区の区長会でも協議したいと思うが、色々な意見が出てきて何がいいのか分からない。今成功している学校の見学会などの支援はしていただけるのか。	（事務局）受け入れ側との日程調整等が必要だと思うが、希望があれば計画させていただくことは可能だ。 （会長）小規模転入制度は、子どもの数の発想ではなく、ストレスを抱える子どもに合う環境の選択肢であり、２名でも何か魅力があるということ。数を増やすアイデアではなく、転入制度を活用する人達が感じる魅力を聞き取り、神戸の魅力向上に繋げてはどうか。南部町に会見小と会見第二小がある。会見第二小は分校のような小さな規模だが、統合ではなく地域で学校を支える形をとっている。驚いたのは、高齢者が学校に出入りすることで生きがいを感じ、高齢者ケアの問題が学校のコミュニティスクールと一緒になっていたこと。職員室に高齢者の机と椅子がある。学校を自分の家のように出入りしたり、子どもを褒めたり、校庭の環境整備をしている。機会があれば、教育委員会が橋渡しをして、南部町に行かれてはどうか。 （事務局）昨年度まで福部中の校長で３年間勤務、統合で千代南中になった用瀬中にも３年間勤務し、小規模校の持つ厳しさは私なりに経験している。一つ言えるのは、学校の取り組みや成果を外に周知しながら運営を進めていったこと。神戸小には神戸小の良さがあり、そこに魅かれて転入する子どももいる。その魅力を神戸小の特色にして、神戸小ではこんな教育が出来ますと考えていけばよいのでは。福部では、小中合同で９年間の子ども像を作り、一緒になって取り組んでいる。更に幼稚園、保育園も入って２、３才から１５才までの育ちを共有している。今の現状の中で物事を考えるのではなく、可能性を見つけながら新たな枠組みを作っていくことが大事ではないか。

説明会及び意見交換会の概要

	主な意見、質問等	質問に対しての回答
6	会長は、個人の意見ではなく地域でまとまった方向性と言われた。大事なことだが、とっても大変だと思う。方向性の話で、小中一貫とか、学校統合とか、色々なパターンがあったが、今のままでそのまま残したいという意見が強く出た場合、その方向でということも有り得るのか。	（会長）そのままというところにもう一工夫欲しい。質問だが美和小とは何か連携しているのか。中学校で言えば、距離的に河原中が近いのなら何か連携しているのか。今のままでは少し不十分なところがある。特に高学年の場合はある程度の人数規模や、中学校に入るための工夫やアイデアが出来るかということ。「神戸の教育を考える会」といったものを作り、視察したりアイデアを出していく中で、自ずと纏まってくるのでは。残すにしても、このままだとどんどん尻すぼみになる。神戸の魅力を最大限発揮して、子どもたちがハッピーに過ごせる学校に出来ないか一緒に議論したい。
7	人数で厳しい予測が出ており、ＰＴＡでも色々な意見がある。このままでという意見、早く統合という意見、もう少し下った所に学校を作って、河原や倉田も一緒にという意見もある。色々な話をしながらいい方向が見つけ出せたらと思っている。今日は、地域の意見も聞くいい機会と思う。いい資料で分かりやすいが、年配の方もおり、もう少し大きな活字でお願いしたい。	（事務局）ページ数が多くなるので、小さくまとめてしまった。後日、公民館に数部、大きなものをお届けする。 （会長）子育てして思うが、１０才位までは歩いて通える地域、保育所とか小学校の低学年、中学年位は地域との関係はとても重要だと思う。逆に江山中学は少し規模が小さく、江山中とどこかが放課後活動を一緒にしたり、インターネットで一緒に切磋琢磨が出来る環境があるとまた違う。思春期の中学生の集団と児童期の問題は違うし、エリアによっても違う。自転車で動けるようになると、少し距離あるところまで行動範囲が広がるので、子どもの育ちと高齢者の方の生きがいをドッキングさせるなど、神戸らしいアイデアが出来ないか期待している。
8	地域の高齢者が学校の中に入るのは、教育委員会や学校はいいのか。あまり関わりすぎるといい思いをされないのではないか。	（事務局）教育委員会としては問題ない。福部中と福部小の校舎の間に小さな土地があるが、私がいる間にそこを芝生化し、例えば高齢者のグラウンドゴルフが出来たり、ベンチを置いて集まったり、その後で学校の授業を見てもらったりといった構想を持っていた。誰でも入ってもらえる学校、見守っていただける学校はとても幸せだと思う。だから、何がいけないということは多分ない。学校長としっかり話をしながら、こんな学校を作っていきませんか、と皆さんがリードしてもいい。そういう学校づくりというのが神戸地区としての特色になっていくのではないか。 （会長）南部町の話で「年寄りには色々な専門家がいて、お百姓や大工さん、左官さん、そういう専門性が学校に提供出来る。稲を植えたことや梨を作ったこともない子供たちと総合学習や生活科の学習を一緒にやれる。先生が授業に集中出来るよう、校庭の草取りや木の伐採等をお年寄りが引き受けている」と聞いている。確かに最初は、先生方の中には自由に出入りすることを心配していたこともあったようだ。しかし、教師とお年寄りは子どもを褒める観点が違い、教師は出来るか出来ないかで褒めるが、お年寄りの方はそうでない褒め方をしてくれて、だいたいどの子もうまく育っているそうだ。
9	神戸でも地元の高齢者と一緒に作物を育てたりして、交わっていることはあるが、学校の中に入ってというところまではやっていない。学校に協力しているということで、授業に組み込まれている訳ではない。	（会長）南部町でも地域の人が出入りする方が安全と言っていた。初めての人がすぐ分かり、声を掛けられるそうだ。神戸小を見学した時、若干気になったのは校長先生に地域の方の考えはどうかを尋ねると「地域は地域の考えがある」と、少し距離を感じたこと。そうではなく、学校と地域で情報を共有し、こんな話も一緒に出来る場を作って行けたらと思う。コミュニティスクールという制度もあるので、もっと地域と学校が垣根を崩していければいいのかなと思う。

説明会及び意見交換会の概要

	主な意見、質問等	質問に対しての回答
10	地域としては、残してほしいという気持ちはあるが、若い親は学校のことが心配で、人数から見れば統合も仕方がないとも思う。小規模なら学校運営が厳しくなり、今でも児童数が３０数人なのに、平成３０年頃には２０数人ともっと少なくなる。地域から学校を残してと訴えた場合、教育委員会として残すと言えるのか。教育長は残すという話だったが。	（事務局）地域の理解と納得がない以上、無理やりの学校統合は無いとお答えしている。教育委員会としてはこの考え方を大事にしている。
11	将来的に子供の数が減ったら、教育委員会として学校を残すことは出来ないのでは。	（事務局）そういう発言は議論の後退を意味する。会長も神戸小の未来を作りませんかと投げ掛けている。なのに「人数が減れば何を言っても無駄だろう」と言う。そうではなく、新しい神戸小の魅力を作り、新しい神戸小の子供を育てるという考えが必要じゃないか。船岡の大江の奥にお菓子屋があるが、あそこは鶏の卵から始めた小さな農場だったが、それが今や大きなお菓子屋。休みともなれば大勢の人が訪れる。口コミで「あそこはいい」「おいしい」などと情報が広がり、多くの人を呼び寄せている。これと同じで、まず皆さんから神戸の小学校をどうしたいという方向を協議して欲しい。何を言っても統合だろうという意識からは神戸小の学校作りは始まらない。今出来ることを考えるところから始まる。会長が皆さんに説明している点はこういうことだ。
		（会長）統合されたくないと色んなアイデアを出され、最後の１人が卒業するまで小学校を維持すると言うなら、それが地域の考えで合意があるなら、それを大切にして進んでいけばいいのでは。最後の一人が分校という形で残るにしろ、その子がそこで学びたい、家族がそこで学ばせたいと言うなら、無理に学校から引き離すことはしない。コミュニティーの計画書を見て面白いと感じたのは「神戸は鳥取市の中心です」と書いてあること。これをキャッチコピーに「鳥取市のへそで学びませんか！」といったポスターを作り「神戸は鳥取市のおへそです」とアピールしてはどうか。桃祭りももっと取り上げてはどうか。地域が元気を無くすと子供たちも元気が無くなる。地域の人が元気になるアイデアを出し合って地域で盛り上がり、最後の一人まで子供を育てるというのは勿論ある。
12	私も「どうせ神戸小学校は統合される」という考えでいた。たくさんの子の中でもまれた方がいい子に育つという意見もあるが、今、色々な事例の紹介を聞いて、統合という言葉にこだわりすぎていたんではないかと振り返っている。	（会長）この会合の名称で「学校の存続」とか書いてあったが、そうではなく学校と地域の結び付きをもっと考え深める会であって欲しい。少人数という問題があるなら、その問題を解決する工夫を考えて欲しい。例えば年に数回、大規模の学校と交流授業をしたり、学期の中で１回は大きな学校と合同行事をするなどの対策は可能だ。小規模だからといって元気を無くす必要は全くない。
13	地区の代表だったり、小学校のＰＴＡ、中学校の代表、保育園の後援会など、さまざまなグループがある。今日は始めての説明会で役員だけになっている。でも、話を聞きたいというグループもある。校区審議会だったり教育委員会の方はまた来てくれるのか。対応は可能なのか。	（事務局）今まで、校舎の耐震問題から西部地域を精力的に回ったが、説明会を希望される単位は、地区であったりＰＴＡであったり、サークルであったり、どのような対象でも対応している。何人以上じゃないとダメということはない。ただ今日は校区審議会の正副会長、学校教育課の次長がいるが、フルメンバーで参加出来るとは断言出来ない。校区審議室の３人は必ず参加する。
		（会長）審議会の任期が１０月２３日で切れるので、続いていれば私も参加する。西部地域で気になったのは、個別のグループで聞くことも重要だが、それをさらにすり合わせ、神戸の意見としていくことが重要。神戸地区の教育を考える会というものが欲しいなと思う。

説明会及び意見交換会の概要

	主な意見、質問等	質問に対しての回答
14	答申までに残されたリミットは２月、３月あたりになると思うが、短期間では決めることは難しい。神戸ではもう１年考える猶予が欲しいとなった場合、地域の意向を酌んでくれるのか。	（会長）大まかな方向性は出して欲しい。教育を考える会が立ち上がり、何らかの方向性を示した上で、細部の協議をしていく分には結構だと思う。細部の調整については時間が掛かることは仕方ない。鳥取県の中でも他の市町村では、割と教育委員会や行政がバーンと先に結論を出す形が多いが、私が９年務めている間も、私の目が黒い間もそういったことはしない。地域も考え方を一つにするようすり合わせて欲しい。
15	神戸だけでなく関連する地区との話し合いなど、どのように進めるか考えている。今後、美和小校区でも説明会を行う予定はあるか。単独で残すならばいいが、統合となると神戸だけで話し合って解決する問題ではない。もし統合となると、相手校の美和小とも合同で考えていく必要がある。	（事務局）まず神戸小として、どういう取り組みをしたいか美和小にエールを送ることが必要。こんな取り組みがしてみたいとか、そういったすり合わせが次の段階になる。統合するとなると、美和小側に統合しませんかと投げかけることになるだろうし、逆に統合前提でなくても、学校のあり方について江山中校区で検討しましょうという投げかけもあるかも知れない。いずれにしても教育委員会は対応させていただくが、今現在、美和小校区での説明会の設定はしていない。
		（会長）今は、神戸地区が校区審議会に声をかけていただいたという状況。出来れば美和にも美和の教育を考える会、江山中にも教育を考える会が出来てきたら、合同で協議も可能となる。
		（事務局）鳥取市は、中学校区で子供を育てていくというスタンス。江山中の中には神戸小、美和小があり、中学校区の中で子供をどう育てていくべきかといった協議の場を持つことは可能。皆さんの力で一緒になって、神戸小の将来の姿、将来の子供像を作る協議をしていきたい。